らは駱駝の針の孔を穿るは却つて易しと

我々の身体も亡びねばならぬ耶蘇曰くもし右の眼なんぢを罪に陷れば抉出して之を棄てよ全身は殿に罪のなれば之を棄てなければならぬことは勿論である之は即ち死刑である

茲に問題が起ることゝは耶蘇のエんサレムに於ける十字架である耶蘇は我々一切の人間に代り其罪を償ふ為に犧牲の血を流したりとすれば我々の罪悪は既に償はれて居るから此上最早死刑の必要はない筈であるとこゝの所である

偖しかるに無数の人間の死刑か一体の磔刑と之を償ふに足りず殊に権衡が取れぬ割へ耶蘇は三日にして蘇生した即ち生命の勝利を博して居る耶蘇である故更に重償なる贖償である故に耶蘇の十字架は直ちに我々罪悪の贖償であると云ふことは出来

ぬ之は卓ち我々罪悪の為め死刑の雛形として之丈のか其責を塞て居る故に又正しい神の納棺に土より出たれば土に帰るべきなりとこゝのみは我々永久に避ることは出来ないのである厳重なる体に死し墓に葬生して天に昇らねばならぬのである

偖て又単に死刑の雛形丈ならば強ち耶蘇の十字架を待つまでもの必要はない之と其所は即ち犠牲の意味の為す所である体を要へるにしても徒らに墓一つ自殺のかさは最も宜しくない之を有益に墓とすること即ち体を以て神の為の最大の盡力を為すべきの因と徒弟の罪悪を自ら償はんとすることか必要である此点は死刑の雛形中に於て最も見直すべからざる所である故に我々は厳密なる十字架を負つて耶蘇の後に従はねばならぬ之れ亦た古来聖賢の教聖によつて繰り返されし所である

第四十章　天國書

天國は順喜時代に於ける無形の有形と支配する所の関係である
聖書に曰く和平を為さる者は福なり其人は神の子と稱さるべけん
はなりと之は取も直さず天國の有様である
福なりとは幸福の一つとして天國の本定義である神の子とは我々は
神の子となりて創世紀の約束通り一体と統合することとて天國の内
容である和平とは統合の實況と天國の外延である
斯のごとくして天國は幸福と統合と和平との三様の意味に合ひ
る

一　幸福

幸福は天國の本定義である
我々は既に物質の束縛を脱したるみなるす神と共に物質を征服
し物質は我々の前に服を脱りて降服し而且つ我々の為めに極めて
従順なる臣僕となりて茲に於て我々は合聖に極めて創世紀の約束
通り物質を支配し萬物を治さることが出来る様になりて世界は統
つて幸福となりたるのである
幸福とは快樂である安慰である喜悦である恩寵である讃美である
我々は既に脱ぎ捨てられて今は真の神の子となりたるなりである最大無上
の幸福であらねばならぬ

二　統合

統合は天國の内容である
物質の世は去りて聖靈の世は来たれり我々は神の子として物質と統
御し其分裂性を棄てしりて秩序正しく順序よく之を一貫統合せし
めなければならぬ有限の物質は分かれては滅するも無限の聖靈は分

かしとて無量禮とある有限の物質は立と取らさか為めに御笑を来すも無限の聖靈は立を無一と盡さ立を盡さんは唐さ。けと盡さ親密の度を隔すのてある。我々は此方法をはて一切の萬物を訪めねはならぬ

すと創世紀の約束では我々人間の訪さへき者の中には他の人間は含まれて居なかつたと云ふのは我々人間は御互に同一他位の神の子てある同一他位の者の互に相訪めることか出来ぬ譯てある保し今日では異れは何てあるか故ほれた靈の我々より見れは敬はれぬ罪悪の人間は未た神の子てなく同一人間なる者時の人間と違つて全く二段に分れて居る立は其位には府ませんぬ

耶蘇は譬有のペテロ兄弟に向つて曰く己れに従へ我事業を人を漁るものとなさんと神使耶蘇の言葉により新約紀に於て新たに約束の一箇条か直加されたのてある我々は一切の萬物を訪さるか如く一切の人間を立を訪めねはならぬ

三　和平

和平は天國の外延事てある

調和一致平穏にして更に爭鬪なきの有様てある

我々は院に敬はれて神と共に在り神の心を我心と為し神の行ひを我行ひとし神の定めたる道理義務を以て一切の物体に臨むへきてあるから其間には和平の如く開展されて何等拒觸衝突のよるへき理由かなく一切の萬物は最も従順に我支配の下に服し自由自在に活動さるゝことか出来るのてある

イエスは曰けるは其を此に据の来れ命に病人に命じて草の上に坐せしめ五のパンと二の魚とをとり天を仰て謝しパンを擘りて弟子に與

如多之と若人に予めみな食て飽満りたる屑を拾ひ集めて十二の籠に盈たり食ひ者は婦と幼童の外凡そ五千人なりき其外耶蘇は風と海とを平息に従へる海水の上を歩行みて舟に至る種々の病を癒す死せる者を甦らすなど死人を甦らす聾の者の自由に出来たのである

然るに一般の物質界にはアがイヴの子孫が相続して従来の通り永久に其罪悪を遺伝するに上天国の和平は全般に限なく珍く来ることは是大のことである其れには我々の子孫として其罪悪を遺伝せしめずそれなるからにして善良なる者のみとするにはそれはならぬそれなるからにして善良なる者のみとするには先つは之組先たる人に於て善く凡て生存中光合に神の聖霊に満ちん而して偽りにアリアのみを挙くることいなさねばならぬのである

11
299

11
299

終